

1 2. ワークショップーダイバーシティ・男女共同参画について考える

ファシリテーター：新井浩子
文学学院非常勤講師

本授業では、第8回、第10回に、ダイバーシティ・男女共同参画について受講生同士が意見交換するワークショップを実施した。以下では第8回のワークショップの概要と受講生の意見、感想を紹介する。

1. ワークショップ概要ー目的、方法、流れ

ワークショップの目的は、個人及び受講生全体の学習課題を設定することとした。本授業では、研究者や社会人など多様な専門性を持つ講師が様々な視点からダイバーシティ・男女共同参画の現状や課題、方向性について講義した。受講生には、毎回授業終了時にリアクションペーパーを記入してもらい、まとめたものを次回授業時に配布したが、実に多様な発見や意見、疑問などが書かれた。そこで前半の基礎講義編の最終回に、授業を通して分かったことや疑問を言語化することで、後半の授業で自分が考えたいことを明確にする機会としてワークショップを提供した。

方法としてはワールドカフェ方式を採用した。ワールドカフェとは、社会や組織のイノベーションを目的に全員参加で話し合う技法で、社会教育、地域活動や企業など幅広い分野で実践されている。また近年ではアクティブラーニングの技法としても注目されている。

具体的には、4人1グループで話し合うセッションを3回実施する。セッション1終了後にグループ変更を行い、セッション2終了後にもとのグループに戻って話し合う。各セッションの終了後に話し合いの内容を全体でシェアする。また、あらかじめテーブルに模造紙を貼りサインペンを用意しておき、参加者は重要だと思ったことや意見、疑問などを書き留めることができる。

ワークショップ技法としてのワールドカフェの特徴としては、4人という人数が話すこと聴くことが最もバランスよくできる人数である、結論を出すことを目的としない、創造的な発見や知恵が生まれやすい、各自の発見や意見を書き留めていくことで話し合いの共有がしやすいといった点がある。大学生の学習支援方法としては、テーマに関連する自身の考えを明確化できる、参加者同士の認識が共有される、共同の学習テーマを設定する機会になる、学習コミュニティの形成につながる、といった効果がある。参加者の状況としては、多様な学生の参加が可能だが、テーマについてある程度の知識や経験、意見を有している方が効果は高い。

本授業では次のような流れで実施した。まず、オリエンテーションの後、セッション1「男女共同参画」、セッション2「ダイバーシティ」をテーマに、これまでの授業を通して「わかったこと」「わからなかったこと」「みんなの意見を聞いてみたいこと」等話をした。その後、セッション3「ダイバーシティ・男女共同参画の推進」について改めて議論し、全体でシェアした。以下では各セッションで出た主な意見を、グループ発表を基に紹介する。

2. グループ発表の内容

(1) セッション1ー男女共同参画について

- ・女性でも総合職が当たり前になったが実際に働くことを考えると一般職を目指す女子が多い。
- ・女子の意欲や能力は高くベンチャー企業では内定者の7~8割が女子だと就職活動で聞いた。

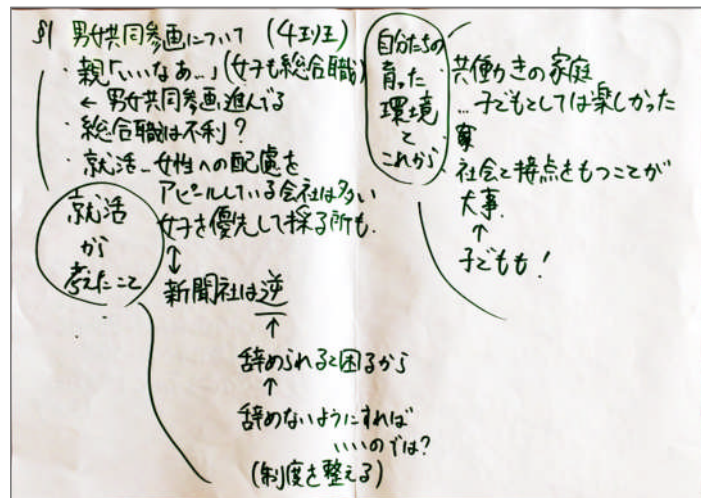
しかし大手企業の中には「女子は将来辞めるから」と男性優先で採用するとも聞いた。優秀な女性でも採用されないのが現実。

- ・なぜ女性は辞めるのだろうか。
子育てが理由なのか？ 育児休業や短時間勤務制度など制度を整えれば離職は減るのか？
- ・授業では女性研究者の増加が男女共同参画の目標として紹介されたが、女性の数を増やせばいいのだろうか。性別ではなくて個人の能力で起用する方が良いのではないか。

Session 1

- ・女性でも総合職があたりまえになった
→ but 実際働かせることを考えて一般職に
- ・ダイバーシティーをアピールする企業(増) → 企業の業種もUP
- ・優秀な女性でも男女バランスを
考えて採用をしない事実
- ・働くバランスを夫婦でバランスよくとる。社会との接点。

- ・共働き家庭が増えているシクメンなどの言葉もあるが、仕事と子育ての両立は「女性の問題」という意識がまだまだ強い。働くバランスを夫婦で取ることが大事だ。家庭によっては、専業主婦になることを選べることも必要では。
- ・若い世代では男女平等や男女共同参画についての意識があるが、親の世代ではない。



- ・「子育てと両立しやすい制度」イコール「女性支援」には違和感がある。やりがいも大事だし、女性が全員結婚や育児を希望するわけではない。選択肢を増やすことが重要だと思う。

(2) セッション2-ダイバーシティについて

- ・企業は盛んにダイバーシティをうたっているが、就活では多様性がない。皆スーツで髪は黒、男子はパンツ、女子はスカートと決まっている。それが苦痛で就職活動自体ができない人もいると思う。
- ・ダイバーシティとは多様性を認めることだと思う。障がい者雇用やLGBTへの理解など少しずつは活発になってきているのではないか。早稲田大学でもハラル食が販売されている。
- ・男・女・LGBT、障がい者・健常者など名称自体に問題がある。例えば、セクシュアル・マイノリティの人の中にはLGBTに当てはまらない人もいる。性別や性的指向、障がいや国籍などは個人が持つ個性の一つなのに、それで人を区分できるのか。

・少しずつ解消されているのかも!
活発になっている

・宗教・信仰 (少数派をどうやって受け入れるか)

・どこまで「多様性」を受け入れる体制をつくれるか?

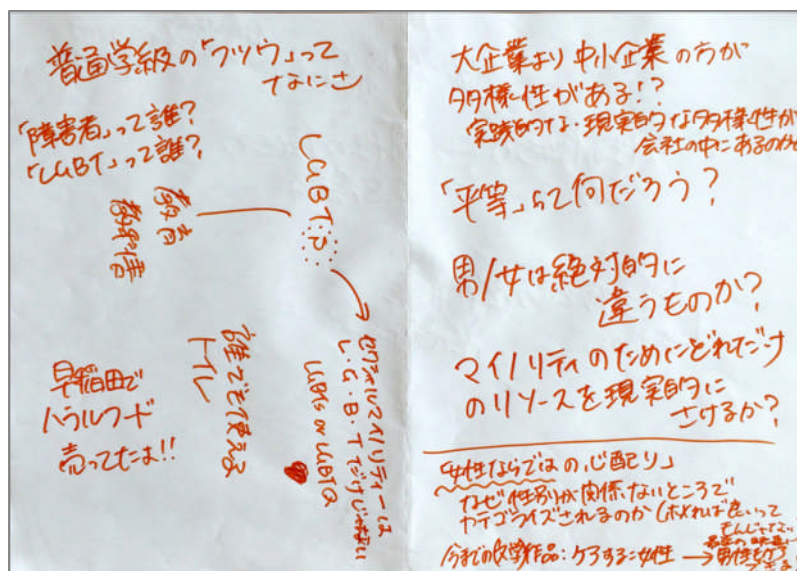
・男/女 という区別
そのものが恣意的...

・何でも「同じ」は「ダイバーシティ」では「いい」?

・子どもにどうやって伝えるか
ダイバーシティ

?

- 日本では学校での制服や学用品の色など男女別が強いように感じる。男女共同参画でも「女性ならではの気配り」など女性らしさを発揮することが女性の活躍だという人がある。男女共同参画自体が性別二元論を前提にしていると思う。男/女という区別自体が恣意的なのに。
- LGBTや宗教などについては話題にしにくいし触れにくい。パラリンピックをきっかけに障がい者アスリートがメディアに露出するようになったが、段階が上がるほど学校での分離が進み、障害のある人とクラスメートとして学んだり友達になる機会が少なくなる。実際の経験がなければ、教員になっても子どもたちにダイバーシティを教えることは難しい。
- どこまで多様性を受け入れる体制をつくれるのか。区別をなくすこと、なんでも同じにすることがダイバーシティなのか。例えば、男女別に加えてセクシュアル・マイノリティ専用トイレをつくった方がいいのか、男性/女性という区別をなくして全ての人を使うトイレにした方がいいのか。更衣室や温泉などは、安全性の点で異論もあるし、逆差別という意見もあると思う。
- 障がいの有無によらず全ての子どもに適した学校は作れないと思う。障がいのある子どものニーズにもこたえ、健常児のニーズにもこたえる教育はできるのか。



(3) セッション3—男女共同参画・ダイバーシティの推進について

- アンケートの性別欄、服装などあらゆるところで日本は性にとらわれている社会だ。この授業はそれらに「疑問」をもつきっかけになった。
- 男女共同参画、LGBT、障がい者、外国人などダイバーシティのためには「働き方の改革」が必要だ。生き方考え方は柔軟に、ニーズについてはしっかり対応する制度をつくる。
- 多様性を尊重することは賛成だが、どのようにしたら少数者を受け入れる体制が作れるのか、子どもたちにダイバーシティをどのように伝えるのかなど、具体的なことは分からない点が多々ある。正確な知識を知らない人も多い。
- ワークショップで話し合ってみて、誰もが当事者だと思った。大学には男性も女性もセクシュアル・マイノリティの人もある。障がいのある人も外国人留学生もいる。ダイバーシティを学べば、ダイバーシティが当たり前の社会になるのでは。今の若者が社会を変えていくと思う。

3. ワークショップ後の感想—レビューシートより

- ・「当事者でない人はいない」ということは、この授業のテーマに通じるのではないかと思った。「男女共同参画」は個人のライフコースと働き方、「ダイバーシティ」は人としてのアイデンティティに関わるからだ。この授業のテーマは、一部の世代やカテゴリーの人だけが考えればよいことではなく、社会全体で取り組むべき課題だと思う。
- ・皆さんが思っている率直な意見をいろいろと聞くことができて良かった。おおよそ理想の社会というものは共通している部分が多いものの、そこに持っていくための考え方はそれぞれ違ったりして簡単に決められることではないのだなと思った。一人一人の個性が尊重される世の中になれば良いと思うし、我々自身がそういった世の中にする方法を考えていくことが大事であると思った。
- ・ワークショップを通じてお互い意見交換を知ることにより、今まで自分が考えていなかった価値観を知ることができた。歴史を先行しているため、どうして差別をしたり、学生服を着なければならなくなったのかをもっと深く知っていきたいと思った。セクシュアル・マイノリティについての話がたくさんできたので、こういった考え方がもっと広まるべきで、私たちが今の高校生や中学生にこういう問題を伝えていくことでこれから先の社会で受け入れやすくなるのではないかと思った。
- ・色々な人の身の回りで起きていることが聴けて楽しかった。本当にいろんな意見が出るのもダイバーシティだなと感じた。
- ・ワークショップ形式で、自分が考えたことのない考えを知ることができて有意義だった。一言に「ダイバーシティ」といっても、男女・障がい有無、国籍、セクシャルマイノリティなど多様なテーマがあるんだなと改めて思った。それぞれのテーマについて、後半の授業でも理解を深めていきたい。
- ・セクシュアル・マイノリティ専用のトイレなどを作ることは、逆差別に当たるのか、これからも考えていきたい。
- ・ワークショップの機会があるのは非常に良いと思った。人との議論、会話の中で発見できることが多かった。この授業が一番楽しかった。
- ・性差についての話がとても興味深かった。性差はどうしてもなくなるものなので、なくすのではなくてそれをうまく解決できるアイデアが大切だと思った。
- ・今までダイバーシティについて話し合うことはなかったので、色々な人の意見を聞いてとても勉強になった。自分と年齢の近い人の意見が聞いて良かった。一番勉強になった。
- ・ワールドカフェ形式は発言しやすく、自分自身の考え自体も整理されてよかった。もっとグループでの話し合いの時間を長くしてほしい。